景気動向調査

平成26年10月～12月　中小企業景況調査　結果報告書

業況は、やや持ち直し、製造業は2期連続悪化

当所では、藤枝市内小規模事業所の経営動向を把握するため、四半期ごとに景況調査を実施しています。
平成26年10月～12月期の調査がまとまりましたので、概要を報告します。
※本調査は、製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業の５種200社を対象に行っています。今回の回収率76.0%。

【主要な表現について】○業況判断：調査対象企業が自らの業績に下した判断
○ＤＩ値：(増加･好転と回答した割合)－(減少･悪化と回答した割合) 悪化すればするほどＤＩ値は▲(マイナス) になります。

管内全産業の業況

業況判断の動向(表１)：全産業での業況は、DI値は▲27.7で前回(H26年7月～9月)より10.5ポイント改善しました。業種別に見ると製造業以外は改善し、特に卸売業は、36.2ポイントの大幅な改善となりました、製造業は、DI値▲29.6と2期連続の悪化となりました。業況は、依然として原材料価格の上昇や需要の停滞、受注・販売単価の上昇難などにより厳しさが続いています。

全産業売上高の動向(表２)：今期のDI値▲25.5は、前回(H26年7月～9月)より4.6ポイント改善しました。消費税増税後反動減等により2期連続悪化していましたがやや持ち直しております。

全産業雇用人員の動向(表５)：前回(H26年7月～9月)より4.5ポイント改善し、DI値1.4と6期ぶりにプラスに転じました。特にサービス業で僅かですが雇用増が見られています。

表1　業種別業況判断の動向

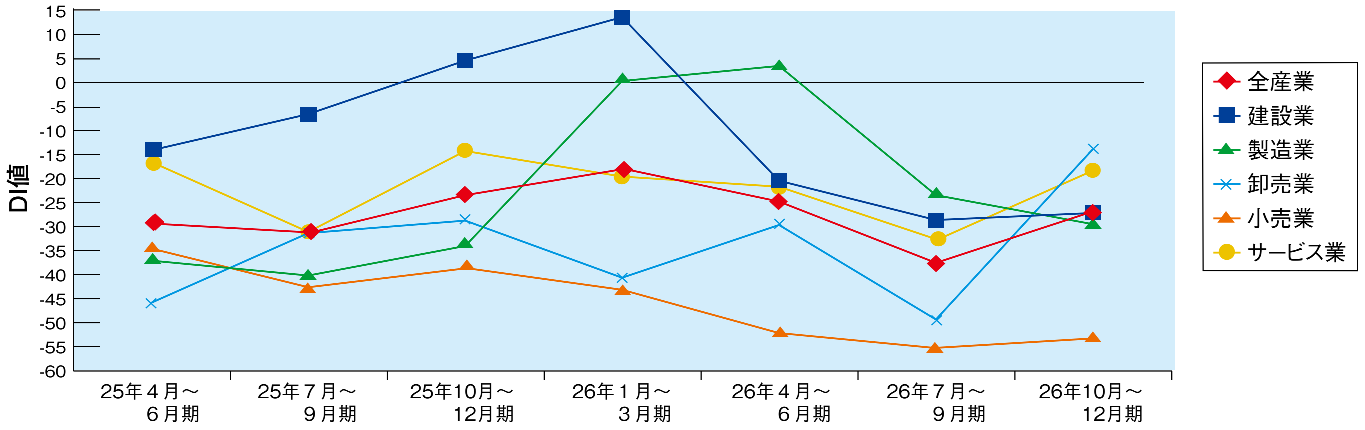


表2　全産業売上高の動向

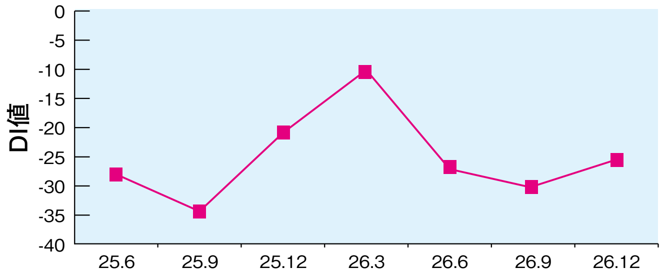


表3　全産業資金繰りの動向

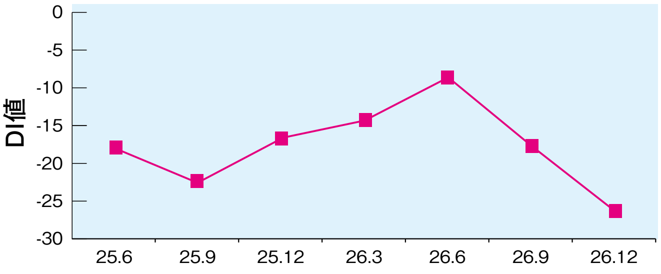


表4　全産業採算の動向

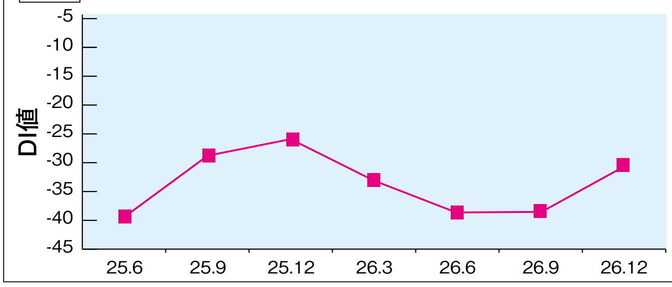
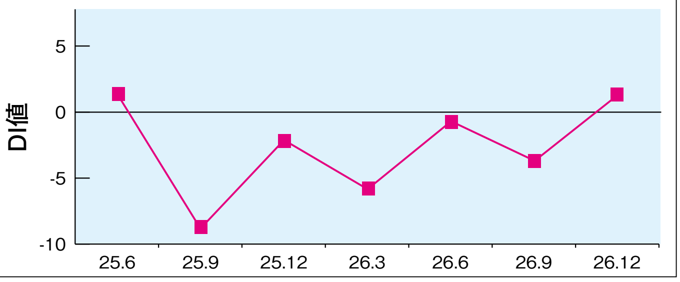


表5　全産業雇用人員の動向



問合せ先　藤枝商工会議所　経営支援課 TEL054－641－2000